

## 仲間増やして職場と生活改善を!

### 近畿地協第19回定期大会に20名が参加

近畿地協は10月19日、「エルおおさか」で第19回定期大会を開催し、役員・代議員20名(委任状4名含む)が参加しました。



主催者あいさつで、岡野議長は「日本被団協のノーベル平和賞受賞は、核兵器の禁止が世界で一番求められているということの証です」として、「高齢になっている被爆者から次の世代への継承が大切」と話しました。また、私たちの生活についても「猛暑の次は米不足、やっと出回ってきたと思ったら、その米の値段がとても高くなっています。30年間ぐらいつつと賃上げもなくやっとな、この24春闘でちょっと賃上げがあったけれど、実質賃金はやはり下がっています。ぜひ25春闘後も賃上げを続けなければ暮らしていけない状況です」と賃上げの継続の重要性を強調したうえで、「自分のモチベーションを維持できる仕事、労働条件の改善を要求して交渉していくことがとても大事なことだと思います。70歳までの雇用延長は今の若い人たちのためにもなります。年金をもらうときになっても絶望しないために若い人も今から声をあげましょう」と幅広い層に響くような運動を進めようと訴えました。

来賓の大阪労連・永井副議長は、「民間と公務員労働者がお互いがんばって励まし合って、連携してやっとなっていくことが大事だと思います。皆さんが24春闘で本当にがんばられたので、大阪の国民春闘共闘が単純比率で27年ぶりの5桁の賃上げを勝ち取ることができました。その民間の賃上げの成果は、人事院勧告に反映されて大阪府の公務員も『若手は引き上げるけど、年寄りには3千円』というけしからん回答ですが、それでも今までにない賃上げ回答になりました

た。これが良い循環となって回っていけばいいのですが、全然、物価高に追いついていないということで、もっともっと物価高を上回る賃上げを実現しないとダメなのです。金融のお仕事はお金を回すっていうことによってうまく発展していくということだと思います。けれど、よく考えてみたら、この30年間、お金は庶民には回ってきていないと思います。もっともっと庶民にお金が回ったら、きっと皆さん方の仕事もより良くなって発展していくと思っています。お金がどこに貯まっているのかというと、大企業が内部留保という形で539兆円も貯めこんでいます。この11年間で200兆円ほど増やしたのです。大企業が自民党に献金をしてパーティー券を買って、それで自民党は買ってくれた大企業の言う通りに政策を作り、この30年間で正規の労働者が減って、不安定雇用の低賃金労働者が増えてきました。そして消費税がどんどん引き上げられてきて、逆に法人税や所得税大金持ちは税率を下げてもらってどんどん良い目をしているわけです。そこにほんのちょっと課税をして応分の負担をしてもらって、賃上げした中小企業の支援に回す、という形でやっとなっていくということが大事だと思います」と、賃上げをめぐる情勢と官民共同の重要性を訴えられました。

同じく金融労連・中島委員長からは「ジェンダー問題をはじめとする格差の是正や、人員の確保ができないと金融機関としての社会的責任が果たせない。やはり我々労働組合が目を見せなければならぬことでもあるわけです。金融労連では

『女性のつどい』とか、今後『30～40代の若手だけを集めた会議』などをして組織の活性化を図りたい」との思いが語られ、「非正規労働者がほとんど存在しないベトナムの金融労働組合では、ジェンダー不平等や賃金差別の問題が発生しません。差別が日常化している日本で、私たち労働組合が『やっぱりおかしい』という意識を持ち続け、解消に向けて取り組んでいきましょう」と激励をいただきました。



## ひとり一人の声を聞いて組合加入実現

幹事会からの議案提案に続いて行われた討議では、「女性組合員がビアパーティを企画・開催することにより入庫2年目女性職員2名の加入が得られた。営業係が提案しポロシャツ2枚が貸与された。69歳のパート職員が営業係をされており、さらに70歳以降も雇用の個別交渉をして



(新加入を実現したビアパーティ)

していきたい」(京都北都従組)

「組織拡大というのが近年難しくなっている中で、先日舞鶴の方でのイベントで組合員拡大の成果につながったと聞いて久しぶりに嬉しい思いをした。それというのも『近くでもやってほしい』という組合員の声を聞いて、それを実現して声をかけた若手の職員が従組に入りますと言ってくれたので、本当にやってよかったと思う。やはり、ひとり一人の声を聞く、というのが非常に大事だということが分かった」(京都北都従組)

「顧客アンケートを実施し、地域や顧客の要求を経営に対して面談を申し入れたが、2回拒否された。地域の労働組合や自治体や中小業者団体などと連携して、地域から信頼される金融機関になるよう経営者に要請していきたい」(金融ユニオン京都北都分会)

「再び金利のある時代に突入していくと貸出金利を確保するため預金も絶対必要になってくる。そういう意味からも店舗施策は地域の利便性も含めて必要ではないか」(滋賀従組)

## 人事部と労働者の間に大きなズレ

「65歳以降の雇用延長要求に対して、『雇用してやるけど劣悪な労働条件』の提案に職場の声は『40年以上仕事をしてきたのに、それに対する結果がこれか』とか『バカにするにも程がある』『アホらしくてやってられない』『金額がどうこうとかより、そもそも職員として頑張ってきてこれだけ貢献してきたにもかかわらず、この扱いですか』ということで、自分で65歳以降の勤め先を探して辞めていく。そのこと自体、人事部はどうもわかっていない、自分たちはそれなりにできる範囲の提案をしたというプラスを自画自賛している。この感覚のズレは致命的」(滋賀従組)

「分会会議は、月一度リモート形式で定例的にやっている。OBの皆さんも参加している。内容は、各人が今置かれた状況を話すという事でみんなとのつながりを維持できる場だという感じだ。65歳で退職してしまったけれど、それ以降、自分で探してきた仕事で

働いている職場の同僚間の問題などの悩み、健康上の悩みなどを聞いてもらえるので、会議終了時には少しだけ元気になってくれている。だから、組合の存在価値として、一人ひとりの組合員にとっては大事な組織として維持されているが、今の情勢に見合うような最低賃金の引き上げにしてみても、社会情勢の中の引き上げに見合うような形の運動を進めていく具体的な議論になりにくい」(金融ユニオン在阪)

「個人的に一つ思っていることは、前・兵庫県知事のいろいろ問題の中で、阪神優勝パレードで兵庫県が県下の信用金庫に補助金(金融伴走支援型の補助)だということで、当初予算1億円だったのを4億円に増やして、そのお金をパレードのカンパとして集めて取り上げた、というのが報道されて、一部の人が俺の関わった副知事だとかそういう人の告発の動きがあるので、その辺のところについても、できれば一緒にやるものがあるならばということで、連携を考えている」(金融ユニオン在阪)

会計監査を含めたすべての議案が、出席代議員の全員一致で採択されました。



次に役員選挙が行われ、新役員が選出されました。選挙結果が白波瀬選挙管理委員長から報告され、各組織から推薦のあった幹事の承認も行なわれました。大会で選出・承認された新役員は次のとおりです。

近畿地協新役員(敬称略) 大会選出		
議長	岡野 展子	池田泉州従組
副議長	後藤 光明	京都北都従組
事務局長	阿部 正巳	京都北都従組
事務局次長	松島 照男	金融ユニオン大阪分会
会計監事	辻 昇三	金融ユニオン直属分会
会計監事	松原久仁彦	金融ユニオン直属分会
新幹事(敬称略) 大会承認		
常任幹事	野村 大樹	京都北都従組
常任幹事	小林 史弥	京都北都従組
常任幹事	澤井 正	滋賀従組
常任幹事	山崎 幸雄	金融ユニオン滋賀分会
常任幹事	田畑 俊郎	金融ユニオン直属分会

PS; このたび阿部事務局長からデスクトップ型パソコンを近畿地協大阪事務所に寄贈していただきました。謹んでお礼申し上げます。ありがとうございました。(大阪事務所一同)